

事業活動実績報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	造形あそび
2 実施期間	令和 6 年 6 月 4 日 ～ 令和 6 年 12 月 17 日

3 取組概要	(取組日) 令和 6 年 6 月 4 日～ (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈移動動物園の導入〉 移動動物園で、子ども達が動物に親しみをもって見たり触ったりできるように、各クラスの保育者が、動物に関する保育を実施した。子ども達は、わくわくした期待感をもちながら、クイズに意欲的に答えていた。(年少児は、タブレットを使用しクイズ形式で動物を紹介した) 
	(取組日) 令和 6 年 6 月 5 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈移動動物園〉 動物とのふれあい体験：クラス毎に動物を間近で見たり、エサをあげたり、触ったりした。この体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう姿が見られた。動物に触れて動いた時の子ども達の驚いた表情や、動物のぬくもりを感じた時の何とも言えない嬉しい表情があった。その感動を友達と共有する姿も見られた。(下の写真では、「ピヨピヨって鳴いてるよ」「ほんとだ!」とコミュニケーションを取りながら思いを共有している。)子ども一人一人が生き物を通して、何かを感じて心を弾ませる体験ができたのではないかと考える。 
	(取組日) 令和 6 年 6 月 5 日 ～ 令和 6 年 6 月中旬 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈表現活動の保育〉 移動動物園後～：移動動物園での一人一人が感じた感動体験を、そのまま表わそうとする活動。年齢発達に応じた表現の保育を行う。(体験を通じた表現あそび・制作活動など)年少児は、ウサギを題材に思い思いの色や素材を自分で選ぶ制作活動。年中児は、粘土で動物を表現した。移動動物園で出会った動物を制作する姿や、イメージを膨らませて、自分の表現したい動物を細部にまでこだわり制作を行う姿が見られた。年長児は、クラス全員で動物園を作った。一人何体でも制作してよく、色や形、素材、材料、制作方法など、自分たちで工夫をする姿があった。また、友達と同じ動物を共感しながら作る姿や、作った後に同じ種類の動物を集めて並べる姿には、お互いの表現を認め合い、喜び合う姿が見られた。 

		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈造形あそび〉造形作家の星野はるか氏が、年長児に造形の楽しさ、素晴らしさを、制作体験を通して伝える。造形作家ならではの観点から、テーマを決め、作品と一緒に制作することで、味わったことのないより豊かな表現を心身ともに体現していく。〈第1回目〉は、何も描かれていない大きな真っ白いキャンパスに、星野氏が子ども達の目の前で物語を描くように動物たちを描いていく。子ども達と絵や会話でコミュニケーションを取りながら描くので、子ども達もどんどん引き込まれていく姿があった。また、目の前で次々と描かれていくプロの作品に「すごーい!」「〇〇(動物)だ!」と積極的に参加することができた。	
3 取組概要		(取組日) 令和 6 年 6 月 26 日 ~ 令和 6 年 6 月 30 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 星野氏の描いた絵をクラスに持ち帰り、絵が目の前にあることに興奮気味の子も達。この後、年長児が色を付け作品を仕上げていく。「これ塗っていいの?」と特別な体験が子ども達にとっては嬉しい様子。目の前で描かれた動物たちなので、自分の塗りたい動物が一人一人あり、意欲的である。「〇〇が塗りたい!」との意思表示をする子も多いので、話し合って決めていく姿も見られた。	
		(取組日) 令和 6 年 6 月 26 日 ~ 令和 6 年 7 月上旬 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること みんなで塗り上げた作品。空の色は、後から何度か塗り加えた。クレパスで色を重ねる表現方法も知ることができた。星野氏と年長児のコラボ作品である!	
		(取組日) 令和 6 年 9 月 12 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈第2回目〉アートな花を咲かせよう! 見立て造形あそび「松ぼっくりフラワー」: モノを何かに見立てるという行為は、想像力を膨らませ、発想を引き出すとても大切な遊び。身近な素材を使い、色とりどりの花を表現することができる「松ぼっくりフラワー」作りを通し、豊かな視点を身につけ、想像力を膨らませていく。まず、星野氏が石に野菜やパンを描いた本物同様の見立て作品に、子ども達はビックリ!(右の写真は、石のカボチャにかぶりついているもの。)見立て造形あそびの虜になった子ども達は、松ぼっくりフラワーに夢中に取り掛かった。一人ひとりの個性あふれる花を集めて、1つの大きな作品を創りあげた。今回は、保護者も参加し、日常の保育とは違った設定で、ワクワク感を感じながら、楽しく意欲的に、主体的、協働して造形に取り組む体験ができたのではないかと思う。	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 〈第3回目〉卒園制作:色とりどりのお花畑「ソルトペイントフラワー」:第2回目のテーマでもあった「お花」。一人ひとりの豊かな表現を大切にしたい「お花」を、クラス全員分と保育者、星野氏とで、1つの大きな作品に仕上げてしていく。子ども達と星野氏との関係性もできていく中で、卒園制作に挑む。普段は使わないソルトや木工ボンドの材料を使うので、興味津々な様子。星野氏の話をしっかり聞きながら、自分の花(色・大きさ・形・背景の色)をイメージしながら挑戦していた。出来上がった一人ひとりの作品を並べて、友達の作品も認め合う姿があった。集大成として、大きな額縁に星野氏とのコラボで出来上がる卒園制作がとても楽しみだ。	   

効果検証報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	造形あそび
2 事業概要	本園の造形あそびをより充実させる為に、①動物を見たり触ったりする体験を通して、一人一人が動物の形や鳴き声や感触からさまざまなことを感じ取ることで、豊かな感性を養う。その体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作するなど、その子なりの豊かな表現活動へと繋げていく。 ②造形作家の星野はるか氏が、年長児に造形の楽しさ、素晴らしさを、制作体験を通して伝える。造形作家ならではの観点から、テーマを決め、作品と一緒に制作することで、味わったことのないより豊かな表現を心身ともに表現していく。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ① 動物に関する表現活動 (人員：5名、動物：ポニー、羊、コウゴウインコ、モルモット、ひよこ) 導入保育：各クラスの保育者が、動物に関する保育を年齢に合わせて実施 動物とのふれあい体験：移動動物園(東武レジャーランド) 表現活動：移動動物園後に各クラスの保育者が実施(表現遊び・制作活動など) ② 造形作家の星野はるか氏との表現活動 年3回、年長児に向けて表現活動の保育を行う 星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝え、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に1つの大きな未知の作品を創りあげていく
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 動物に関する表現活動において： 各クラスの保育者が、移動動物園後の制作活動を視野に入れながら「ねらい」をもって導入保育に臨み、子ども達はわくわくする気持ちで動物を迎えることができていた。動物とのふれあい体験では、動物に直接触れる体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう姿が見られた。その感動を友達と共有する姿も見られた。表現活動では、感動体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、その子なりの豊かな表現活動が行っていた。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 年3回にわたり、年長児に向けて表現活動の保育を行うことができた。星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝えながら、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に毎回わくわくしながら1つの大きな未知の作品を創りあげることができた。今年度は、昨年度の経験をもとに、活動内容も充実して行うことができた。

計画時	4 事業のねらい	本園は、「健康」と「表現」の領域を教育の2大柱とし、子どもたちの心身ともに健やかな成長を促すとともに、個性豊かな感性を養っていくことを特色としている。「表現」の領域において、音楽活動においては、専門家を招いての活動やカリキュラムを行うことで充実した内容になっている。造形においては、あそびや保育の中で、工夫を凝らし行っているが、もっと充実させることができるのではないかと考えている。保育では、絵画・折り紙・壁面・天面制作などさまざまな制作を行っているが、季節の制作が多く、体験を通じた制作を行うことはあまりない。そこで、動物を幼稚園に招き、動物を見たり触ったりする直接的な体験を通して、動物の形や鳴き声や感触を感じ、豊かな感性を養う。その体験をもとに、感じたことや興味を、体で表現したり、さまざまな材料を使って制作するなど、一人一人の豊かな表現活動へと繋がっていくと考えている。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に1つの大きな未知の作品を創りあげていく場所もホールや園庭を使い、材料や表現方法も普段ではなかなかできないような、身体全体を使って、表現していく。その際、保育者も一緒に参加し、造形の専門性に触れながら、日々の保育に取り入れられる技術や援助の仕方を学び、年間を通して子どもたちの豊かな感性や表現を伸ばしていく。
-----	----------	---

事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 本園の教育の特色の1つである「表現」の領域の造形において、保育の中では、さまざまな制作を行っているが、体験を通じた制作を行うことで、さらに充実させることができるのではないかという思いから、今回の事業に取り組んだ。動物を幼稚園に招き、動物を見たり触ったりする直接的な体験からは、動物の形や鳴き声や感触を感じることができ、豊かな感性を養うことに寄与できた。その体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、一人一人の豊かな表現活動へと繋げることができた。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画しながらすめ、子ども達は造形作家と共に毎回わくわくしながら、1つの大きな未知の作品を創り上げていくことができた。専門家ならではの材料や表現方法も体験することができ、子どもも保育者も、造形の専門性に触れながら、年間を通して子どもたちの豊かな感性や表現を伸ばしていくことに寄与できた。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ①導入保育(5月下旬)：各クラスの保育者が、動物に関する保育を年齢に合わせて実施(動物の紹介など) 動物とのふれあい体験(5月31日)：クラス毎に動物を間近で見たり、エサをあげたり、触ったりする体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう 表現活動の保育(移動動物園後～)：年齢発達に応じた表現の保育を行う(体験を通じた表現あそび・制作活動など) ②事前打ち合わせ(5月上旬)：星野氏に和光幼稚園の表現に関する教育内容を伝え、子ども達の姿を理解していただいた上で、1年を通して3回実施する「造形あそび」の表現活動の企画・準備を依頼。保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に、1つの大きな未知の作品を創り上げていく。子どもが日常の保育とは違った設定で、ワクワク感を感じながら、楽しく意欲的に、主体的、協働して造形に取り組む体験をしてほしい。そして今後の表現活動でも、自分なりの豊かな表現ができるような経験を味わってほしい。 造形あそび第1回(6月26日)：企画中 造形あそび第2回(9月12日)：企画中 造形あそび第3回(12月17日)：「卒園制作」
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 動物に関する表現活動において： 計画通り、各クラスの保育者が、移動動物園後の制作活動を視野に入れながら「ねらい」をもって導入保育に臨み、子ども達はわくわくする気持ちで動物を迎えることができていた。動物とのふれあい体験では、動物に直接触れる体験を通して、動物の大きさや温かさ、さまざまな特徴を感じながら、触れ合いを十分に味わう姿が見られた。その感動を友達と共有する姿も見られた。表現活動では、感動体験をもとに、感じたことや興味を、さまざまな材料を使って制作し、その子なりの豊かな表現活動が行えていた。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 年3回にわたり、年長児に向けて表現活動の保育を行うことができた。星野氏には、事前に年長児の姿や普段の制作活動を伝えながら、より子どもたちが楽しく意欲的に主体的、協働的に造形活動に取り組めるようなテーマや内容を保育者と一緒に企画し、子ども達は造形作家と共に毎回わくわくしながら1つの大きな未知の作品を創りあげることができた。今年度は、昨年度の経験をもとに、活動内容もさらに充実して行うことができた。 造形あそび第1回目(6月26日)：動物の絵画の共同作成 造形あそび第2回(9月12日)：見立て造形あそび「松ぼっくりフラワー」 造形あそび第3回(12月17日)：「卒園制作」「ソルトペイントフラワー」の共同作品

計画時

6 環境構成	①導入保育：保育者が動物に関する絵本や資料を準備し、保育の中で子ども達に紹介するなどして、動物に興味関心をもち、動物の観察や感じ方ができるような保育を行い、会うことを楽しみに待てるようにする。 動物とのふれあい：東武レジャー企画の移動動物園を招く。園庭に動物ごとのブースを設け、動物園の飼育員の指導のもと、クラス毎に動物たちとじかに触れあう。(例)①羊の餌やり：柵内の羊にキャベツをあげたり、羊をなでたり話しかけながらのふれあい②コウゴウインコとの会話：大きなインコが言葉を話せることを知り、優しく話しかけることでインコとの交流を楽しむ③ヒヨコの抱っこ：ヒヨコの抱き方を教えてもらい、一人一羽ずつ手で持ち、ヒヨコの小ささや形や動きを感じる 表現活動：(例)年齢に合わせたテーマを考えた上で、さまざまな材料(画用紙・模造紙・折り紙・綿・モール・スズランテープ・クレヨン・マーカーペン・のり・はさみ・セロハンテープ)を準備し、子どもたちが動物と触れ合い感じた中で「つくりたい!」「なりたい!」動物を好きな材料を使い、思い思いの動物を表現する 一人一人(または数名で・クラスで)が作った作品を紹介し合う。
	②第1回～第3回 各回、テーマを設定し、大きな模造紙や布をキャンバスに、さまざまな材料で、色彩を感じ考えながら、造形作家の星野氏と一緒に大きな1つの作品を作っていく。場所も保育室ではなく、広々とした和光幼稚園のホールや園庭を使う。クレヨンや筆をもって描くだけでなく、身体全体を使って大胆に描いていくことも予定している。星野氏の魔法のように絵を描いていく姿に触れたり、アッと驚くような仕掛けがある作品を子ども達も一緒に手掛けていく。

事業後

6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 動物に関する表現活動において： 導入保育：保育者が絵本やタブレットを用い、動物に関するクイズや読み聞かせで子ども達に動物を紹介し、動物に興味関心をもち、動物の観察や感じ方ができるような保育を行い、会うことを楽しみに待つことができていた。 動物とのふれあい：東武レジャー企画の移動動物園を招き、園庭に動物ごとのブースを設け、動物園の飼育員の指導のもと、クラス毎に動物たちとじかに触れあった ①羊の餌やり：柵内の羊にキャベツをあげたり、羊をなでたり話しかけながらのふれあい②コウゴウインコとの会話：大きなインコが言葉を話せることを知り、優しく話しかけることでインコとの交流を楽しむ③ヒヨコの抱っこ：ヒヨコの抱き方を教えてもらい、一人一羽ずつ手で持ち、ヒヨコの小ささや形や動きを感じる④ウサギとのふれあい：幼児にとってウサギは大きく重いので、かごに入れ背中をなでたりして触れ合った 表現活動：年齢に合わせたテーマを考えた上で、さまざまな材料(画用紙・模造紙・折り紙・綿・モール・スズランテープ・クレヨン・マーカーペン・のり・はさみ・セロハンテープ)を準備し、子どもたちが動物と触れ合い感じた中で「つくりたい!」「なりたい!」動物を好きな材料を使い、思い思いの動物を表現することができた。年長児は、一人一人が作った作品を動物ごとに並べて動物園を作成した。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 第1回目「動物の絵画の共同作成」：大きな布のキャンバス・ペン(講師)／クレパス(園児)、作品は園内に作品として飾る 第2回「松ぼっくりフラワー」：まつぼっくり・アクリル絵の具・筆・ボール・紙コップ・新聞紙・牛乳パック・雑巾・グルーガン・ドライヤー(この回は保護者も参加)、作品は大きな植木鉢に挿し、園内に作品として飾った後、各自持ち帰り 第3回【卒園制作】「ソルトペイントフラワー」：木板・鉛筆・アクリル絵の具・スポンジ・紙皿・ボンド・ソルト、作品は卒園制作として6年間園内に飾る
-------------	--

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ①移動動物園：普段の園にはいない動物を見て触って、何かを感じたり感動したり、心を弾ませる体験ができる。その感じたことをそのまま表わそうとする姿に繋がるだろう。遠くから眺める動物園とは違い、動物を間近で見て触る体験は、動物に対してよりさまざまな感情も生まれる。また、家族で行く場合とは異なり、幼児期の子どもにとって、友達といっしょに体験するということにも大きな意味がある。動物に対する興味や関心、友達や先生との会話をしながらコミュニケーションを高めることもでき、その会話から気持ちを共有する機会や新たな発見・興味も生まれることが期待できる。 表現の保育：①導入部分では、動物への興味関心を年齢や表現活動の内容に応じた保育を行うことで、動物に触れあう時も様々な視点で触れ合ったり観察することができ、移動動物園後の表現活動では、より豊かな表現に繋げていく効果が期待される。子どもがより期待感や興味関心をもって移動動物園に参加する姿、主体的に動物に接する姿が期待できる。②表現活動：動物と触れ合う中で、感じることできた可愛らしさや愛しさ、驚き、また実際に観察・体験したからこそわかる大きさ・形や毛の感触などを、自分なりに意欲的に主体的に身体で表現したり、個性豊かな表現を行ったり、協働的に制作したりする姿が期待できる ②大きな模造紙や布をキャンバスに、さまざまな材料で、色彩を感じ考えながら、造形作家の星野氏と一緒に大きな1つの作品を作っていく。場所も保育室ではなく、和光幼稚園のホールや園庭を使うので、伸びやかに、ワクワク感をもって開放的、意欲的に表現活動を行う姿が期待できる。講師の魔法のように絵を描いていく姿に触れたり、アツと驚くような仕掛けがある作品と一緒に手掛けることで、子ども達はさらにたくさんのワクワク感を感じ、表現の魅力に魅せられ、「自分も描いてみたい！」と意欲的、主体的に制作を行うことが期待される。また、皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行う姿も期待できる。また、専門家と一緒に作品を創りあげたり、専門家に認められること、それは大いに自信に繋がることと考えている。他の子が認められていることを見て、友達の新たな一面を見ることができ、多様性を認めることも期待できる。子どもにとっての1つの自信が、さまざまな事への意欲に繋がることも大いに期待できる。
事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 移動動物園において： 普段の園にはいない動物を見て触って、何かを感じたり感動したり、心を弾ませる感動体験ができた。その後の制作活動では、その感じたことをそのまま表わそうとする姿に繋げることができた。また、間近で動物を見て触る体験は、動物に対して、さらにたくさんの感情も生まれ、友達といっしょに体験することにも大きな意味をもつ幼児期の子どもにとって、大きな意味があった。動物に対する興味や関心、友達や先生との会話をしながらコミュニケーションを高めることもでき、その会話から気持ちを共有する機会や新たな発見・興味も生まれることができた。 表現の保育において： 導入部分では、動物への興味関心を年齢や表現活動の内容に応じた保育を行うことで、動物に触れあう時も様々な視点で触れ合ったり観察することができ、移動動物園後の表現活動では、より豊かな表現に繋げていくことができた。子どもが期待感や興味関心をさらにもって移動動物園に参加する姿、主体的に動物に接する姿があった。表現活動では、動物と触れ合う中で、感じることできた可愛らしさや愛しさ、驚き、また実際に観察・体験したからこそわかる大きさ・形や感触などを、自分なりに意欲的に主体的に表現したり、協働的に制作したりする姿があった。 造形作家の星野はるか氏との表現活動において： 大きな布のキャンバスや身近な自然の素材を使って、色彩を感じ考えながら、造形作家の星野氏やクラスの友達と一緒に大きな1つの作品を作る体験は、場所も和光幼稚園のホールを使い、伸びやかに、ワクワク感をもって開放的、意欲的に表現活動を行う姿が見られた。講師の魔法のように絵を描いていく姿に触れたり、アツと驚くような仕掛けがある作品と一緒に手掛けることで、子ども達はさらにたくさんのワクワク感を感じ、表現の魅力に魅せられ、「自分も描いてみたい！」と意欲的、主体的にイメージしながら制作を行うことができていた。また、皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行うことも楽しい経験だった。また、専門家と一緒に作品を創りあげたり、専門家に認められること、それは大いに自信に繋がる。他の子が認められているところを見て、友達の新たな一面を見ることができ、多様性を認めることもできただろう。子どもにとっての1つの自信が、さまざまな事への意欲に繋がり、いろいろな活動においても「やってみよう！」という意欲的な姿が増えた。
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本園の教育の特色の1つである「表現」の領域の中の造形あそびについての教育内容をさらに充実させるため、今回の事業を行った。動物とのふれあいと通しての直接的な感動体験は、子ども達の豊かな感性を養うことに寄与でき、その体験をもとに行った制作活動では、感じたことや興味をさまざまな材料を使って制作するなど、一人一人の豊かな表現活動へと繋げることができたのではないと思う。また、造形作家の星野はるか氏を迎えての表現活動では、子どもたちはたくさんのワクワク感を感じ、表現の魅力に魅せられ、「自分も描いてみたい！」と意欲的、主体的にイメージしながら制作を行う姿があった。皆で1つの作品を作ることで、友達や先生とコミュニケーションを取りながら協働して行う楽しい経験できた。また、専門家と一緒に作品を創りあげたり、専門家に認められる体験は、子ども達にとって大いに自信に繋がり、他の子が認められているところを見て、友達の新たな一面を知り、多様性を認めることにも繋がる機会となった。子どもにとっての1つの自信が、さまざまな事への意欲に繋がり、いろいろな活動においても「やってみよう！」という姿が増え、子ども達の成長した姿を見ることができた。また、企画の1つである星野氏とのコラボは、一人ひとりの作品を集めて、1つの大きな作品にした時の子ども達の嬉しさ、星野氏と一緒に制作することで、専門性が加わった芸術的作品は、大変感動的なものとなり、子ども達の豊かな感性を育むことに大変寄与できたのではないかと考える。これからも、これらの貴重な表現活動を教育に取り入れ、和光幼稚園の特色のある教育として取り入れていきたいと思う。